

地域住民に対する意識調査に基づいた
地域再開発の基本計画の策定に関する研究
－（その2）魚津市エコシティ整備計画の策定について－

- 準会員 飯塚 昌吾*1 同 Dewancker Bart*2
- 正会員 山中 貴晴*2 同 高橋 信之*4
- 同 永澤 利昌*3 同 尾島 俊雄*5

1. はじめに

1.1 研究目的

人口5万人程度の地方小都市である富山県魚津市は市街地のスプロール化による自然破壊などの様々な問題を抱えている。そのようななかで魚津市の都市整備にあっても、地域の実情に即した都市機能と自然環境の共生しうる都市の創出を考えていく必要があると思われる。そして、地域住民に対する意識調査に基づいて整備計画を策定するのが一つの方法であると考えられる。

本研究では、富山県魚津市における現状調査、及びその分析結果を踏まえた都市環境調査についての住民へのアンケート調査、有識者へのヒアリング調査、まちづくりに関するシンポジウムを通じて、住民の意識調査に基づいた地域再開発としてのエコシティ整備計画の在り方をスタディする。

1.2 研究概要

魚津市における都市環境調査（参考文献1)2)）によりエコシティ計画の重点整備地区を選定し、重点整備地区の基本方針を策定した。そして、住民へのアンケート調査により、その賛否と共に自然やまちづくりへの意識調査を行い、重点整備地区の整備計画案を策定するためにヒアリング調査を行った。それを、住民に評価してもらい、重点整備地区の整備計画を策定した。

2. 魚津市の現状

魚津市の南西部は山岳地帯で市街地面積の70%は森林であり、北西部は海岸が8.18kmにもわたって富山湾に接するなど市街地周辺部には豊かな自然環境がある。しかし、市街地のスプロール化によりそれらの自然を侵食しているだけでなく、自動車利用が不可欠な都市構造を形成し、環境へのインパクトが非常に大きくなっている。

また、市街地内では自然が少なく、1人当たりの都市公園面積は平均を下回っている（図3）。さらに、希少な自然的要素である鴨川や海岸は、生活排水による汚染や道路網による分断、セメントで固められ親水性に欠けた護岸などにより市民の憩いの場とはなっていない。

3. 重点整備地区の基本方針策定とアンケート調査

3.1 重点整備地区の選定

エコシティの実現に向けて、他の地区へ波及効果を期待できる重点的に取り組む拠点地区として次の4地区を

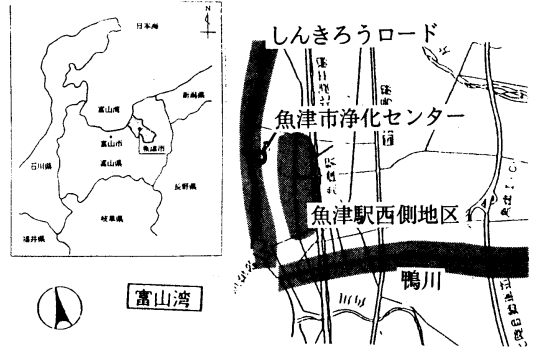


図1 ケーススタディ地区

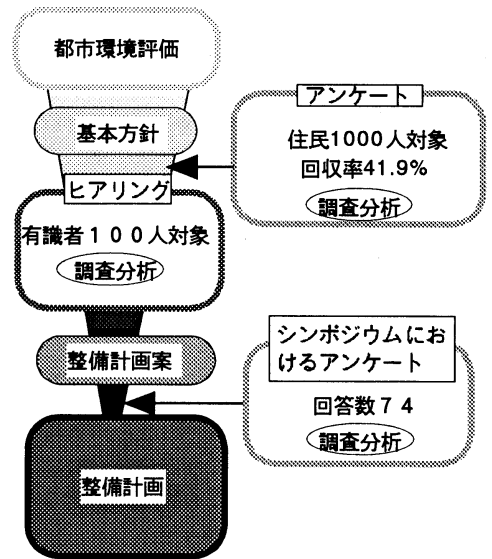


図2 研究フロー図

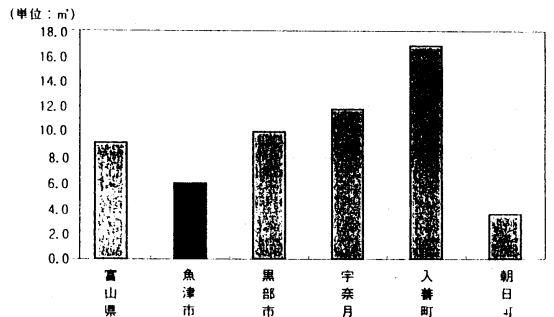


図3 1人当たりの公園面積

選定し、概略図を図4に、整備手法を図5に示す。

- ・グリーンネットワークの形成と水辺の再生を中心に整備する「鴨川」「しんきろうロード」「魚津駅西側地区」
- ・未利用エネルギーとしての下水処理水の活用を行う「魚津市浄化センター」

3.2 重点整備地区の基本方針の策定

重点整備地区の基本方針を次のように策定した。

- ・鴨川：生活のなかで親しんだ昔の姿を取り戻す
- ・しんきろうロード：海辺の自然に親しめる場
- ・魚津駅西側地区：うるおいのある街路空間
- ・魚津市浄化センター：未利用エネルギーの活用

3.3 住民へのアンケートの調査

無作為に抽出した魚津市民1000人を対象に、まちづくりへの参加意識、魚津市の自然破壊についての意識、重点整備地区の基本方針の賛否についてアンケート調査を行った。調査方法は、郵送により調査票を配布・回収した。回収件数は419件（回収率41.9%）であり、調査対象者については本報（その1）に示す。

3.4 アンケートの分析結果

1) 住民のまちづくりへの参加の意識

図6によると、どの年代も参加の意識は高いが、15～24歳は参加の意識が低く、この年代を取り込んでいくことが課題である。

図7によると、エコシティ整備のことを知っている人ほど、まちづくりへの参加意識が高いことがわかる。

この項目の自由回答の分析として、行政が情報を公開し、住民に働きかけ、住民と一体となってまちづくりをすることを望んでいることがわかった。

2) 自然破壊についての意識

図8によると、どの地域の人も自然破壊について意識しているが、特に中心部の人ほどその意識が高い。

この項目に関する自由回答の分析として、市民が憩え、そして、子供の遊べる公園のある自然と調和のとれたまちづくりを望んでいることがわかった。

3) 重点整備地区の基本方針に対する賛否について

図9によると、多数の人が重点整備地区のエコシティ整備を望んでいる。そして、重点整備地区の基本方針についても賛成が得られたので、今後これを基に整備計画案を策定していくこととした。

4. ヒアリングによる重点整備地区の整備計画案の策定

4.1 有識者へのヒアリングの調査

有識者100人に、まちづくりに関する意見、重点整備地区の整備計画案への提案・要望を中心にヒアリング調査を実施した。実際に回答が得られたのは95人であった。

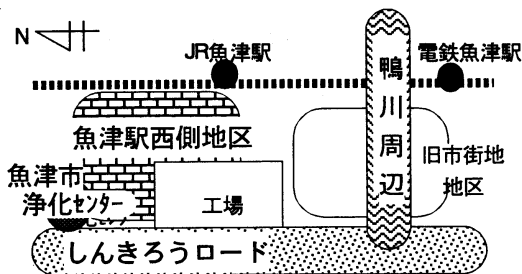


図4 重点整備地区の概略図

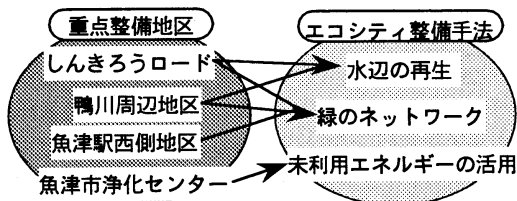
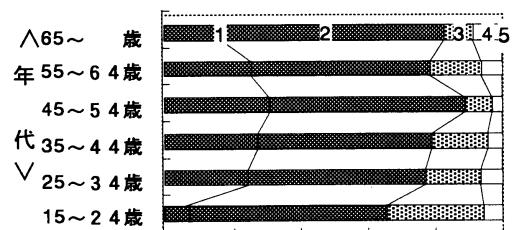
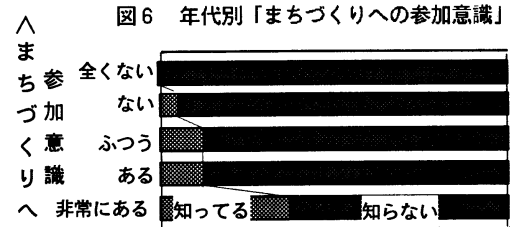


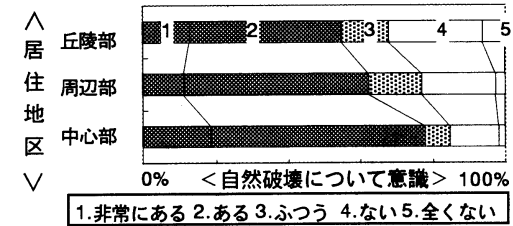
図5 整備手法の検討



0% <まちづくりへの参加意識> 100%
1.非常にある 2.ある 3.ふつう 4.ない 5.全くない



0% <整備の認識度> 100%
図7 整備認識度とまちづくりへの参加意識



0% <自然破壊についての意識> 100%
図8 地域別「自然破壊についての意識」

詳細については本報（その1）に示す。

4.2 ヒアリングの分析結果

調査結果をKJ法（参考文献3）により分析して図10のような結果を得た。この結果をもとに重点整備地区の整備計画案を策定した。

5. 住民評価による重点整備地区の整備計画

5.1 シンポジウムの開催について

9月26日に魚津市立村木小学校において「鴨川周辺の水辺を中心としたまちづくりシンポジウム」を開催し、住民120人の参加を得た。

5.2 シンポジウムにおけるアンケート調査

まちづくりに関するシンポジウムにおいてヒアリングにもとづいた重点整備地区の整備計画案の賛否に対するアンケート調査を実施した。回収件数は74件であった。

5.3 シンポジウムにおけるアンケート集計結果

図11に鴨川の整備項目とその賛否、図12に他の3地区の整備項目とその賛否を示す。この結果から次のような整備計画を立てた。

5.4 重点整備地区の整備計画

1) 鴨川について

ここは整備項目が多く、かつ旧市街地内にあり、最も整備が困難であると思われるので、3つの段階を設けた。

第1段階として、駐車場として利用されているが、景観を損ない親水性の欠如の原因となっている鉄板橋を撤去し、立体駐車場など代わりの駐車場を整備する。同時に河川の二重化や水の浄化により水量、水質の改善を行うといった現状の改善を中心とした整備を行う。

第2段階として、川沿いに緑を配し、自動車を規制して遊歩道を整備する。また、ポケットパークを設けて生態系を保護し、自然のなかで親しみ憩える空間にするといったアメニティの創出をする。

第3段階として、老朽化した旧市街地を鴨川につなが

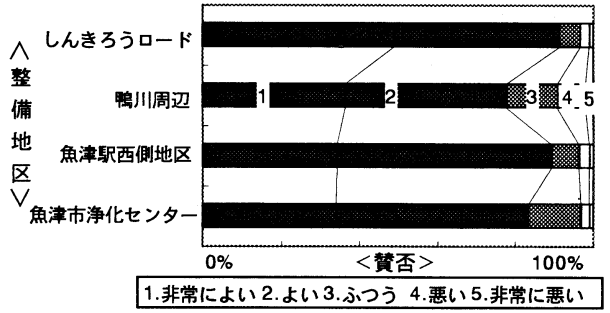


図9 整備基本方針の賛否

る緑道や遊歩道により、鴨川と一体的に整備する。同時にてんこ水（湧水）やその配管を整備し、誰でも利用できる生活のなかにとけ込んだ姿を取り戻す整備やたてもん祭りのルート化によりにぎわいを取り戻すといった伝統との調和を考えた整備を行う。

2) しんきろうロード

魚津の重要な自然資本の1つであるしんきろうロード沿いの海岸において海に親しみ、豊かな自然に積極的に関われる砂浜を再生する。さらに自然に気軽に憩える遊歩道や海の生き物に気軽に接することのできる市民の安らぎの場となるポケットパークを整備する。

また、海と山の景観を配慮し、しんきろうロードに疎林による緑化を行い、防風林や景観改善策としてのグリーンベルトをつくり、これを軸として市街地にグリーンネットワークを広げる。そして、街中を巡るネットワークを形成し、緑に包まれた潤いのある市街地環境の創出に寄与する。

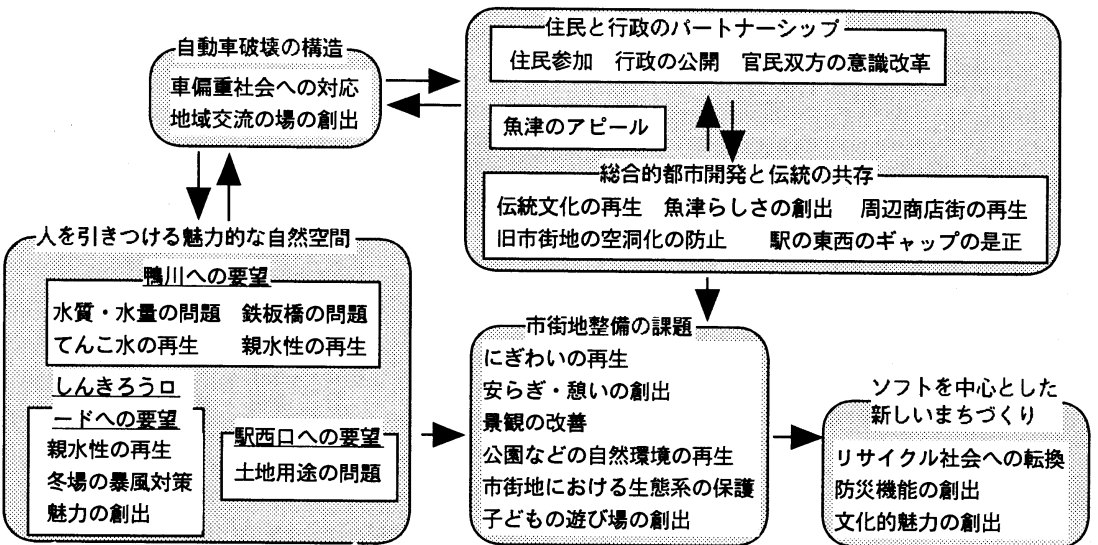


図10 ヒアリング調査の分析

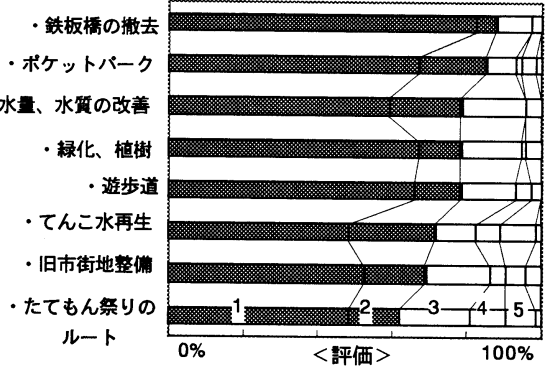
3) 魚津駅西側地区

路樹を配して緑のネットワークを形成し、水循環の適性化を施す街路の透水性舗装をする。また、車中心に整備された街路を歩行者に優しい街路として整備する。さらに魚津の玄関として水の豊かさを感じられる空間とするなど環境への負荷低減とアメニティの向上に資する市街地の構築を行う。

4) 魚津市浄化センター

下水処理水による修景や融雪、下水処理水熱を活用した熱供給を行うことで、地下水抑揚負荷の削減や都市排熱の削減を行う。それにより、環境への負荷低減を図ると共に既存の未利用エネルギーの有効活用をはかる。

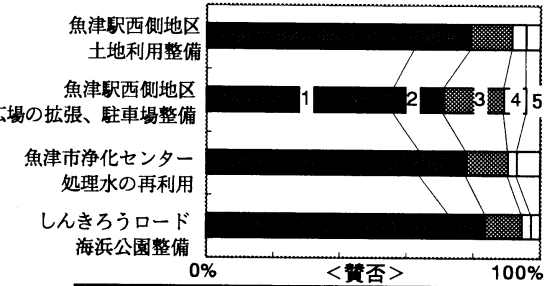
△整備項目▽



1.非常によい 2.よい 3.ふつう 4.悪い 5.非常に悪い

図1 鴨川整備に対する住民評価

△整備項目▽



1.非常によい 2.よい 3.ふつう 4.悪い 5.非常に悪い

図2 その他の整備に対する住民評価

6. まとめ

本論文ではエコシティ整備計画策定の一手法として地域住民の意識調査に基づく計画手法を検討し、エコシティ整備計画を提案した。これにより魚津市における都市環境調査による統計データと住民の意識がほぼ一致することが分かり、詳細な地域の実情を把握し、整備計画に盛り込むことができた。

□謝辞

本研究を行うにあたり、アンケート、ヒアリングにご協力いただいた魚津市民の方々及び、お世話いただいた魚津市役所の方々へ深く感謝の意を表します。

□参考文献

1) 九十九 優子 他：「地方小都市における環境共生型都市づくりに関する研究、日本建築学会関東支部研究報告書（1993年度）」

3年度)

2) 上村 香 他：「市街地における中小河川の整備計画に関する調査研究、日本建築学会関東支部研究報告書（1994年度）」

3) 川喜多 二郎：「発想法」 中公新書



図13 鴨川の整備イメージ

図14 魚津市浄化センターの再生水利用システムの概念図

※1早稲田大学 ※2早稲田大学大学院 ※3早稲田大学研究生
 ※4早稲田大学理工総研 助教授・工博 ※5早稲田大学 教授・工博